

# TEAM UP GARAGE ISR Performance GT Radial 2024 FormulaDRIFT Race report



**FORMULA DRIFT**®



# FORMULA DRIFT®

FORMULA DRIFT 開幕戦は例年同様に、市街地コースのロングビーチで開催された。  
公道を使った特設コースのこのラウンドは、コース幅が狭く、さらには路面状況、路面温度が常に変化する非常に難しいラウンド。

開幕戦を一目見ようと金曜日、土曜日の二日間で23,000人のファンがロングビーチに駆けつけた。

## イベントウィークエンドのハイライト

イベント入場者数: 23,000人

ライブストリーム/イベントコンテンツ観覧者: 16,600,000 人超

ライブストリーム視聴時間: 48,000,000 分

## イベントウィーク(4月9日-4月16日)におけるFormulaDRIFT 各ソーシャルメディアハイライト



フォロワー数: 2,500,000+  
視聴数: 4,267,435  
リーチ数: 5,499,491  
エンゲージメント数: 1,395,999  
インプレッション数: 6,284,987

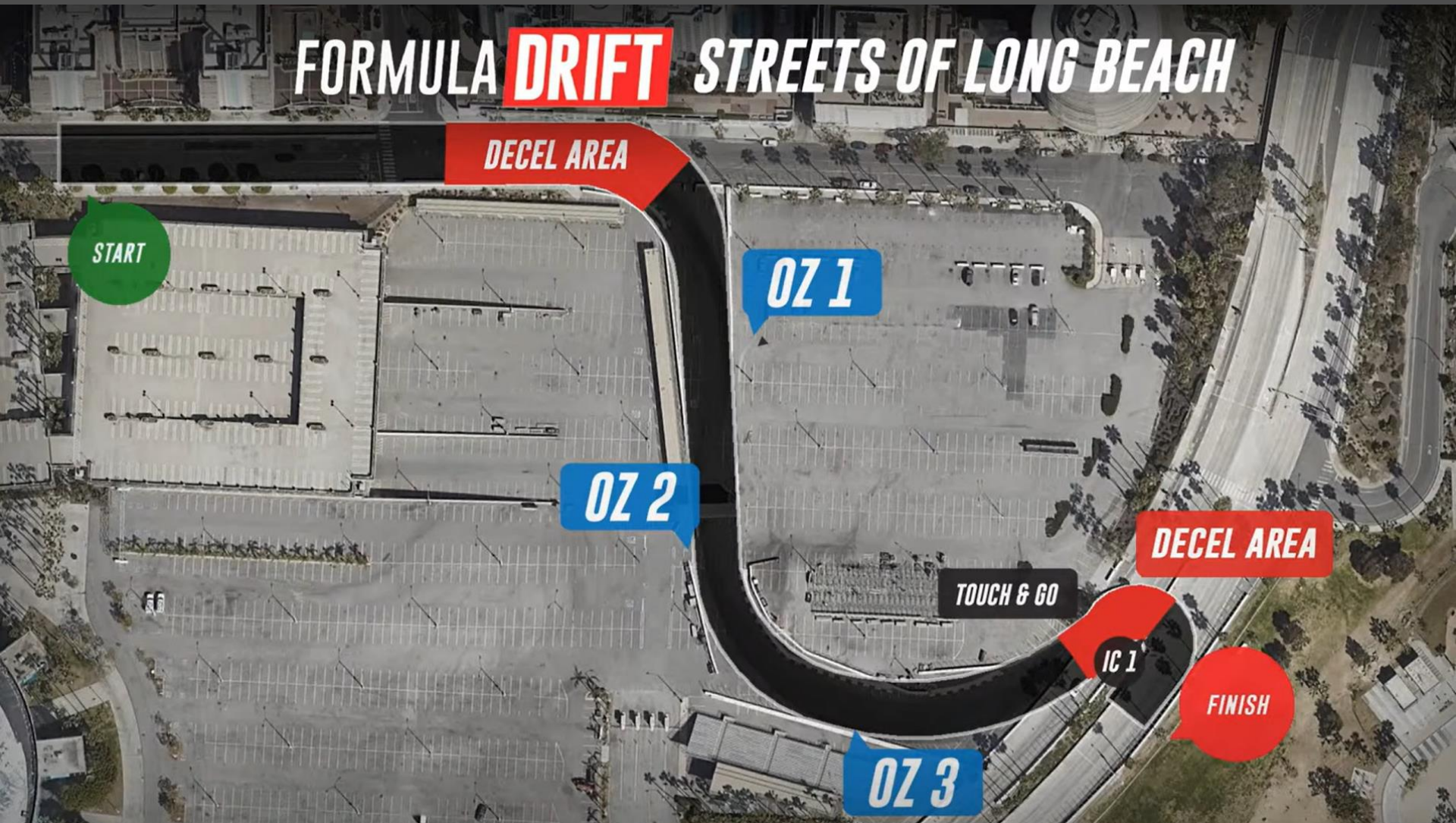


フォロワー数: 1,800,000  
視聴数: 8,600,000  
リーチ数: 4,356,732  
インタラクション数: 940,000



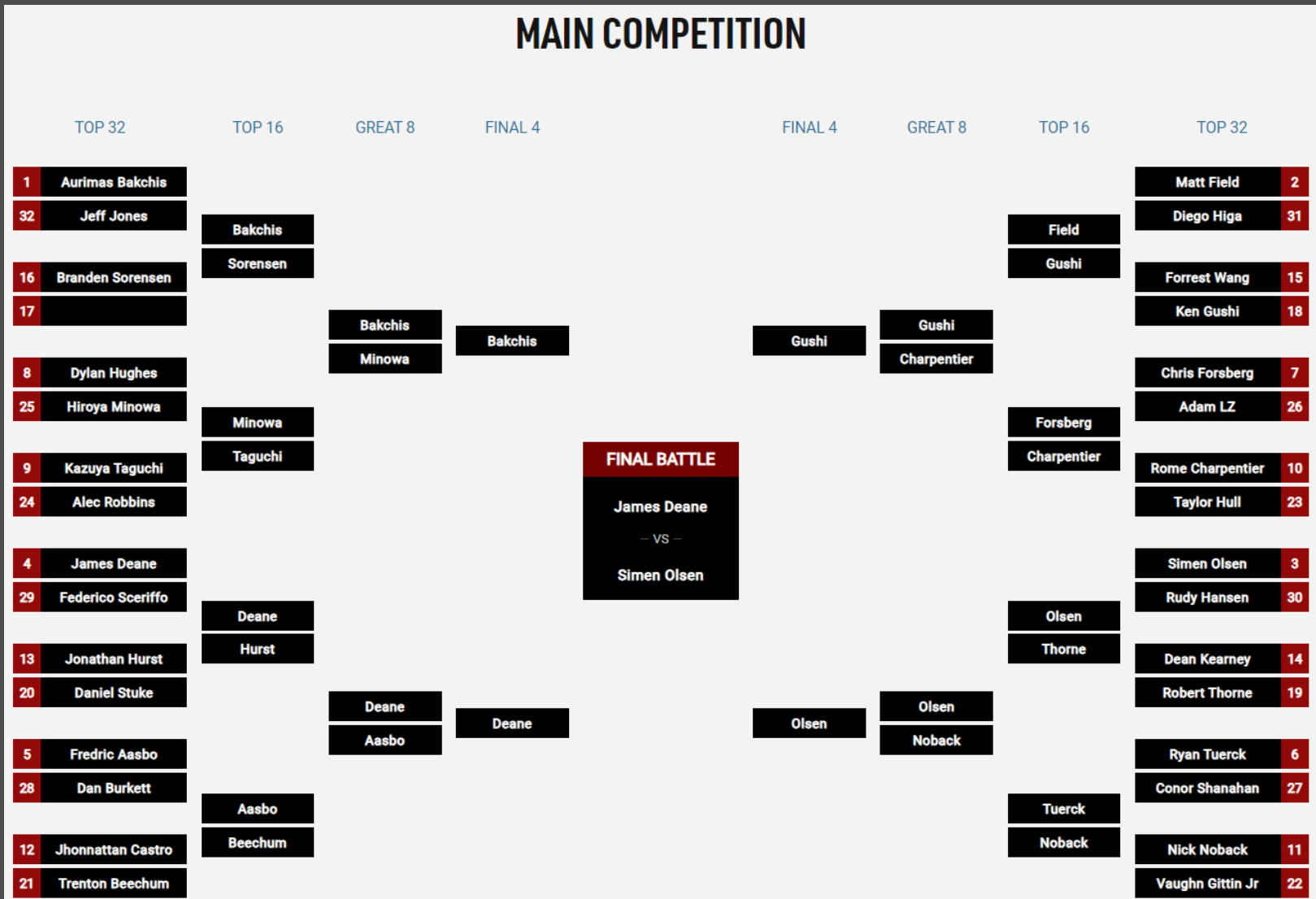
サブスクライブ数: 637,000  
視聴数: 2,300,000  
インプレッション数: 31,500,000  
視聴時間: 806,000時間

# FORMULA DRIFT STREETS OF LONG BEACH



# FormulaDRIFT USA 2024 Rd.1 TOP32 Final Bracket

## MAIN COMPETITION



## (Friday) 2024年4月12日

### 公式練習走行日

今シーズンより、レース開催形式に大きな変更が見られた。長年の間、採用されていた「単走予選方式」がなくなり、決勝トーナメントのブラケットを変更するための「シーディングブラケット」という新たな制度が設けられた。1台ずつ走行する予選に代わり、シーディングブラケットは前ラウンドの順位が24位以下の選手が決勝トーナメントへの生き残りをかけて、追走トーナメントを行う。観客にとっては今まで2-3時間かけて1台ずつ行われる予選に比べ、金曜日から予選トーナメントが見られるとのことで予選日の観客動員数は増えたものの、下位チーム・ドライバーにとっては走行マイルが伸びること、予選よりも接触やマシンへのダメージを受ける危険性が高まる等のデメリットもあった。わたしたちは昨シーズンのシリーズランキング10位で終了していたため、シーディングブラケットには不参加。自動的に決勝トーナメントに進むことが決定していた。

予選走行がないことによる影響は練習走行にも影響を及ぼした。昨年までは短い練習走行の中、予選用・追走用のマシンセットアップをそれぞれ見つけ出さなければならなかったが、予選走行がない今期は練習走行の1周目から追走に合わせたセットアップにフォーカスすることができるようになった。

昨年のセットアップをベースに練習走行をスタート。今期、ターボを変更した兼ね合いもあり、わずかに違ったフィーリングであったが狙っていたパワーレベルとギアレシオがマッチしており、終始細かなサスペンション調整とタイヤの内圧調整とともに運転に集中することができた。ロングビーチ市街地コースは海に面しているために風向きによって常に路面温度が変化するとともに、普段は公道として使用されている通常の道路であるため、ラバーがのるまでに時間がかかり、結果として毎周ドライバーに違った走行印象を与えるのがこの市街地コースの難しさである。しかし、全体として決勝に向けて良いフィーリングを得ることができた練習走行となった。

## (Saturday) 2024年4月13日

### 決勝トーナメント

TOP32の対戦相手は今期ニューマシンを投入した、Alec Robbins選手(NISSAN LS 350Z/KENDA TIRES)。1本目は私が先行。先行走行はポイントを抑え、ミスなく走行することを意識。アウトゾーン1と2の間でブレーキを使って車速調整をすることを余儀なくされるものの、大きなミスなく走り切った。後追いのAlec選手は1コーナー進入時にマシンのコントロールを失い、ハーフスピン。2本目に向けて大きなアドバンテージを得た。入れ替えて、私が後追い。スタート直後から、相手と良い感覚を保ったまま走行。近すぎず、離れすぎずの距離を保ったまま最終コーナーに進入する際、ダウンシフトができずに一瞬ニュートラルに引っかかるような症状が発生し、慣性を失ってしまいマシンはそのままコースアウト。なんとか自走でフィニッシュを切ったものの危うい勝負となってしまった。結果、相手のミスのほうが大きいというジャッジの判断により、TOP16に駒を進めた。チームはすぐにクラッチの修復を開始した。

TOP16の対戦相手は今期チームメイトのHiroya Minowa選手(TOYOTA VR38DETT FRS/GTRadial)。14歳、そしてアメリカシリーズ初参戦のルーキーといえども、素晴らしい実力を持ったドライバーで、ワンミスが勝負を決める難しい戦いが予想された。1本目は私が先行。スタートからフィニッシュまでミスなく、綺麗なラインとレースを行うことができた先行走行であった。逆にHiroya選手は最終コーナー手前で振り返りのタイミングをわずかに誤り、ドリフト走行が戻ってしまう減点があった。入れ替えて、私が後追い。ワイドなラインを走るHiroya選手の後ろをしっかりとついていったが、鬼門の最終コーナーで2台の減速ポイントの違いが生じ、私がHiroya選手に2度接触。結果的にその接触がHiroya選手をスピンに追い込んでしまう。後追い車両として先行車両に接触、さらには先行の走行を妨げてしまう行為は原則大きな減点となるため、Hiroya選手の減点具合に比較した結果、勝負はHiroya選手に軍配。開幕戦ロングビーチはTOP16敗退という結果となった。



TEAM UP GARAGE ISR Performance GT Radial

2024 FormulaDRIFT USA Race report

FormulaDRIFT USA 2024 TEAM UP GARAGE ISR Performance GT Radial  
協賛 / 協カスポンサー各社様

**UP GARAGE**

**ISR**  
PERFORMANCE

**GT** RADIAL

**YELLOW**  
SPEED RACING USA

**enjukuracing**

**Crooover**

**MOTUL**

**ORC**  
Ogura Racing Clutch

**TOMEI**  
The Engine Specialist

**FRSE**  
FRS Racing Engineering

**WISEFAB**

**WedsSport**  
RACING WHEEL

KORU WORKS

**MV**  
MECHANIX WEAR

**az rag(s)**  
azragus.com

**DIAMOND**  
Pistons

**2 PERFORMANCE**

**DEI**  
DESIGN ENGINEERING INC.

**SUPERTECH**

**radium**

**ROCKETLEVEL**

**MAD**  
SWEDEN

**BRIDE**

**Rocket Bunny**

**MAGNUS**

**Sendon.com**

**Ninja Style**  
MADE IN JAPAN

**FORMULA DRIFT**

TEAM UP GARAGE ISR Performance GT Radial  
2024 FormulaDRIFT USA Race report